

# 相互理解のためのやりとり能力養成を目指した授業実践－聞き手の働きかけに着目した試み－

## 1 研究の背景と目的

目的：相互理解型やりとりにおける、聞き手の働きかけに着目した実践を行い、その効果と意義を考察する。

### 言語を使った口頭でのやりとり

課題解決型やりとり	相互理解型やりとり
目的：実際の課題の解決 ・聞き手は必要な情報を収集する ・話し手は必要な情報を提供する 例) 公共機関への問い合わせ 物事を決定するための会議	目的：相手の考え方・信条の理解 ・聞き手は相手を受け止め積極的に理解を示す役割を担う 例) 雑談、おしゃべり、社交的会話

## 2 口頭やりとりにおける「聞く力」とは

### 1) 先行研究

- ・上級学習者のインタビュー分析（聞き手として）により、学習者には情報受け取りのサインや、円滑に会話を進めるための積極的な働きかけが不足することを指摘。（日野 2008、広田他 2012）
- ・相互理解型やりとりは教材や授業であまり扱われていない（広田他 2012）

### 2) 「聞く力」とは

**聞き手** 一続きのまとまった話を受け、あいづちの反応だけでなく実質的発話も行いながら反応や働きかけを返す者（伝、2009、植野 2012）

**聞き手の働きかけ**（植野（2012）をもとに再構成）

発話に対する言葉による反応

- ① 聞いていることを示す（あいづち・部分的繰り返し）
- ② 確認要求
- ③ 情報伝達
- ④ 先取り・補足
- ⑤ 応答
- ⑥ 同意
- ⑦ 質問
- ⑧ 言い換え
- ⑨ 感想
- ⑩ 解釈

\* 積極的な聞き方（斎藤 2012）  
コミュニケーションにおいて相手に好意を持たれるために重要な力

## 3 実践の概要

**研修名**：海外日本語教師短期研修（冬期）全員が日本語ノンネイティブで、教授経験2年以上

**研修期間**：2016年1月～3月のうちの3日（50分×7コマ）

**研修参加者内訳** モンゴル、インドネシア、ベトナム、ネパール、メキシコ、ウズベキスタン、ロシア各1名、合計7名

**参加者のレベル** B1.2 「聞く力」について学んだことがあるとした人は1名のみ  
**目標とするレベル** B2（＝お互いに緊張しないで母語話者とやり取りできるぐらい流暢で自然なレベル）

**授業のトピック**：「仕事と職業」


**授業の最終目標**

- ・リラックスした雰囲気の中で、「教師という職業で大切にしていること」「どこにやりがいを感じているか」などについて、話し手と聞き手の役割を上手に交代しながらやりとりをし、相手との理解を深める。今回は特に「聞き手」の働きかけを意識する。

### 1日目（50分×3コマ）

目標の提示 トピックについてのインプット活動	<b>【タスク1】</b> ・相互理解型のやりとりの映像を見て内容を聞き取る。 「二人のプロフィール」「仕事へのこだわり」「共通点」等 ・やりとりを通じて二人が理解を深める様子を観察する。 ・聞き手の働きかけ方に注目し、分析する。  使用番組：2016年1月1日再放送 NHK 「スイッチインタビュー」から 話者：田中珉（タナカ）× 狭土秀平（ノジラ） テーマ：仕事へのこだわり
アウトプット活動 （1回目）	<b>【タスク2】</b> ・仕事のやりがい・難しさについて参加者同士ペアでやりとりを行い録画する（20分程度）。 ・終了後、お互いの理解が深まるやりとりができたか、戸惑ったことがあればそれはどんなことかふりかえる。 ⇒「積極的な聞き方」についての目標を確認する。
宿題	スクリプトで確認しながら相互理解型のやりとり2例を見て、「聞き手」は「話し手」にどう働きかけたか確認してくる。  使用番組： a) 2015年4月25日放送 BS朝日 「ザ・インタビュー」から 話者：ハートキャンベル（日本文学者）× 小島慶子（アナウンサー） テーマ：研究のおもしろさ  b) 2015年12月26日放送 NHK 「スイッチインタビュー」から 話者：吉本ばなな（作家）× 森本千絵（アナウンサー） テーマ：年齢を重ねて変わったこと

### 2日目（50分×2コマ）

インプット活動  『齋藤孝の聞く力』（2012） だいわ文庫	<b>【タスク3】</b> 積極的な聞き方についての文章を読みディスカッションする。  <b>要旨</b> 人に好かれたいなら、「積極的に聞く力」をつけることが重要である。それには相手のことばを受け止めて応答したり、話を要約したり、再生したり、質問したりするとよい。相手の話を聞いて、自分の話にすりかえてしまうのは積極的な聞き方とは言えない。
--	--

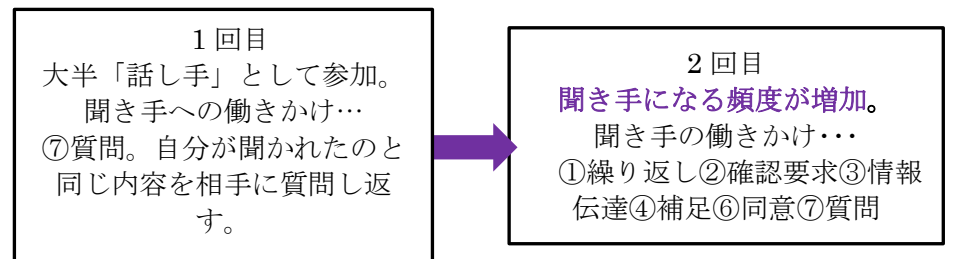
### 3日目（50分×2コマ）

インプット活動  アウトプット活動 （2回目）  ふりかえり	・「積極的な聞き方」の種類を整理する。  <b>【最終タスク】</b> 【タスク2】のときと相手を変え、再度やりとりを録画する。  口頭でふりかえり。ふりかえりシート記入 <b>ふりかえりシートの内容</b> 「聞く力」についての教育を受けたことがあるか／国に「聞く力」を扱った本があるか／「聞く力」を意識したことがあるか／「聞く力」について教えたことがあるか／今回の授業で一番の気づきは何か／今後心掛けたと思ったことがあるか／教師として今回学習したことがあるか
---	--

## 4 結果と考察

### 1) アウトプット活動における変化（聞き手として積極的に働きかける）

ケース：授業参加者Aの場合



### 2) 内省に見られる変化（振りかえりシート、事後アンケート、ポートフォリオ記述）

**積極的な聞き方を心がける**：「2回目の会話で特にあいづちと話し手が言ったことを別の言葉で言い換えることと、話し手が言った言葉をそのままくりかえすことに気がつきました」（参加者A）

**聞き手としての普段の自分を振り返る**：「自分のことがあまりいい聞き手じゃないということが分かりました」（参加者A）「（聞く力は）毎日の聞き入ることは仕事でも一般的な生活でも足りないと思います」（参加者B）

**教授活動に関して振り返る**：「話すことも聞くことも必要ですから、学習に伝えたいです」（参加者B）「学習者に日本語だけ（ごい・文法）をいっしょうけんめい教えようとしています」（参加者C）

## 5 成果と課題

### 1) 成果

- ・参加者は、聞き手としての自分自身を振り返り、積極的な聞き方が日本語の口頭でのやりとりにおいて重要であることを認識。
- ・参加者は教師として、授業で口頭運用力として何を扱ってきたか、今後どのような授業を行いたいかを内省し、「聞く力、積極的な聞き方を学習者にも学ばせたい」と考えるきっかけとなった。

### 2) 課題

- ① **相互理解型やりとりを教室内で扱うことの難しさ**  
 実生活で頻繁に行われる言語活動だが、教室活動として設定する（相手・やりとりの必然性・テーマなど）と不自然さを伴う。提示する例として適切な映像を探すのが難しい。
- ② **繰り返し扱うことの重要性**  
 「積極的な聞き方」を扱った後、それらを自身で積極的に実践する／あえて実践しないという劇的な変化は確認できなかったが、実践するかどうか自ら選べるようになるために繰り返し扱うことが重要。
- ③ **「聞き手」の熟達度設定に関する調査・研究**  
 参照した CEFR の能力記述文には「話し手」に比べ「聞き手」に関するものは少ない。どのレベルでどのような聞き方を目標とすればよいか調査・研究が必要。

### 参考文献

- 植野貴志子「聞き手行動の社会言語的考察—語りに対する聞き手の働きかけ—」『日本女子大学紀要文学部』Vol.16 pp.57-68  
 齋藤孝（2012）『齋藤孝の聞く力』だいわ文庫  
 伝康晴（2009）「聞き手行動の認知科学に必要なもの」『認知科学』vol.16 No.4, pp.475-480  
 日野純子（2008）「上級学習者の聞き手としての談話行動—インタビューにおける聞き手としての働きかけ—」『第19回第二言語習得研究会全国大会予稿集』pp.46-48  
 広田妙子・本郷智子・山崎真弓（2012）「日本人学生に対する上級日本語学習者のインタビュー—資料の分析：聞き手としての言語行動に注目して—」『日本語教育方法研究会誌』vol.19 No.1, pp.70-71  
 水谷信子（1988）「あいづち論」『日本語学』第7巻13号, pp.4-11